

鉄道 四国

四国旅客鉄道株式会社

松岡 正己（経営企画部担当部長）

少子高齢化・人口減少に向けたＪＲ四国の取り組み

四国旅客鉄道株式会社

1. はじめに

昭和 62 年 4 月 1 日の国鉄分割民営化により、四国の鉄道路線網を継承した会社として発足したＪＲ四国は、ＪＲグループ旅客 6 社の中で最も小さな会社であり、地域に密着した会社になることを目標として、この 20 年間で歩んできた。しかしながら、四国全体の状況を振り返ってみると、大半の地域において、若年層を中心とした人口流出による過疎化の進展が進み、高齢化社会が現実のものとなっている。特に四国の状況は図 - 1 に見られるように、65 歳以上の人口の割合が全国より 10 年先行している。

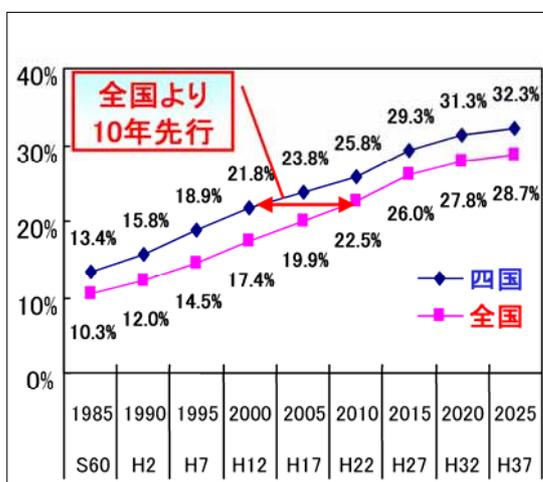


図 - 1 65 歳以上の人口割合

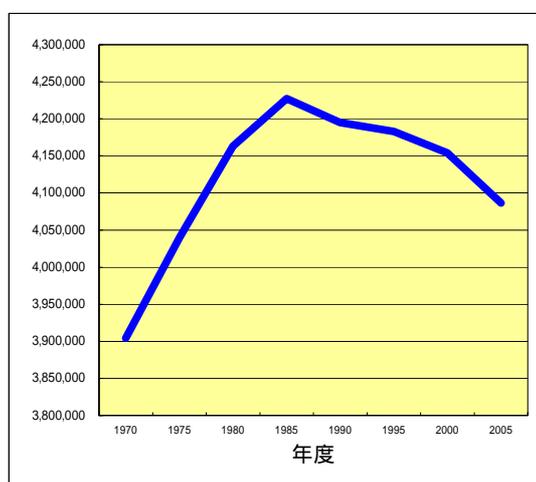


図 - 2 四国の人口推移(1970 年～2005 年)

また、都市部や都市近郊においては、少子化による小、中、高等学校の統廃合の事例も見られるようになってきた。図 - 2 の国勢調査による四国の人口推移で示すように、四国 4 県全体でピークとなる昭和 60 年の人口は 423 万人であったが、平成 17 年の人口は 408 万人となっており、20 年間で 15 万人もの減少となった。すなわち、当社を取り巻く経営環境は、全国平均よりも深刻な少子高齢社会と人口減少社会であり、四国に根ざした会社として地域の皆様とともに歩んでいくためには、少子高齢化・人口減少社会に対応した営業施策を展開していくことが必須となっている。

2. 設備面における取り組み

当社は、四国 4 県に 855 k m の路線網と 258 の駅、車両数 456 両により鉄道事業を展開しており、1 日に 1022 本の列車を運行し、全線で約 13 万人のお客様にご利用いただいている。今後の高齢化社会の時代に鉄道を不自由なくご利用いただくため、特に駅の段差解消については、その重要性が高まってきている。ご利用客数 5 千人以上となる、交通バリアフリー法における特定旅客駅は当社に 7 駅あり、各駅の整備状況は表 - 1 に示す通

りである。この他にも、高架駅となっている高徳線の佐古駅および予讃線の内子駅、橋上駅舎である土讃線の後免駅、高徳線の志度駅、牟岐線の阿南駅にもエレベーターを設置している。また、駅ホームへの進入路に関しては、段差解消のため49駅でスロープが設置されており、ご利用しやすい駅の増加に努めている。

駅名	自治体名	自治体による基本構想策定時期	バリアフリー化の状況、整備予定等
高松	高松市	平成15年3月	平成13年の新築時にバリアフリー化を実施済み。
坂出	坂出市	未定	平成9年の高架完成時にエレベーターを設置済み。
丸亀	丸亀市	平成14年3月	平成16年度に国のバリアフリー補助制度の適用を受けてエレベーター設置等のバリアフリー化を実施。
今治	今治市	平成16年3月	市の基本構想を受けて、エレベーター設置等のバリアフリー化を計画しており、今治市と協議中。
松山	松山市	平成15年3月	平成19年度に国のバリアフリー補助制度の適用を受けてエレベーター設置のバリアフリー化を実施予定。
高知	高知市	平成15年4月	平成20年春にバリアフリー化された駅舎を供用。
徳島	徳島市	平成17年6月	平成14年度に国のバリアフリー補助制度の適用を受けてエレベーター設置等のバリアフリー化を実施。

表 - 1 交通バリアフリー法における特定旅客駅の状況

一方、車両設備については、新型車両の導入や普通列車用車両へのトイレ設置を進めている。当社における最新型車両は、昨年5月に登場した1500型気動車(写真-1)であり、徳島県内を中心に普通列車として活躍している。従来型車両との比較では、車両床面高さを80mm下げ、駅ホームとの段差を少なくし、乗り降りしやすい構造を目指した。車内においては車椅子対応トイレや車椅子スペースを設置するとともに、扉開閉チャイムや停車駅表示装置の設置も行い、バリアフリーの設備を充実させている。車両デザインは、爽やか、軽快な四国をイメージした配色を意識し、外装は自然をモチーフにした緑、内装は木目調化粧板により癒しの空間を演出している。現在は8両が運行しており、今後も増備する計画である。

この他の施策として、車両出入口ドアの開閉ボタン設置が挙げられる。当社の普通列車は、冬期の車内保温や夏期の車内冷房効果維持のため、冬期や酷暑期に乗降口のドアを半自動扱いとし、お客様に手動でドアを開けていただくことにしている。以前は文字通り手で動かす方法でドアを開けていたが、ドアが重く容易に動かせないため、高齢者等のお客様には多大な負担となっていた。そこで、1500型には当初から、その他の従来型車両の一部においても、写真-2のようなドア開閉ボタンを設置し、容易なドア開閉を可能とした。現在は一部の車両のみに設置されているが、これから順次、設置車両を増やしていく予定である。



写真 - 1 1500 型気動車



写真 - 2 ドア開閉ボタン

3. 営業面における取り組み

これまで設備面について述べてきたが、ここでは、各種企画切符や会員組織等、営業面における取り組みについて、具体例を挙げて述べていくこととしたい。

(1) 企画切符

- ・ 青春 18 切符

全国の普通列車の普通車自由席や宮島航路が乗り降り自由のきっぷであり、1 日間有効の切符が 5 枚綴りとなっている。普通列車の普通車自由席のみ乗り降り自由であり、マリンライナーの指定席や特急列車など、特別料金が必要な列車や座席には乗車できない。1 人で 5 日間の旅行や 5 人グループの日帰り旅行など、いろいろな使い方が可能である。「青春 18 切符」というネーミングではあるが、年齢に制限はなく、学生のグループ旅行や定年後の余暇にも利用可能である。

- ・ フルムーン夫婦グリーンパス

2 人の年齢を合わせて 88 歳以上のご夫婦がご利用いただける格安なきっぷであり、全国の JR 線（グリーン車・B 寝台車）が乗り降り自由である。5 日間用、7 日間用、12 日間用があり、2 人のうちどちらかが 70 歳以上の場合は、「シルバー用」が利用でき、5 千円割引となる。きっぷを呈示すると、JR ホテルグループ加盟店ホテルにおいて宿泊料金の割引などの特典が受けられる。

(2) 会員組織

- ・ ジバング倶楽部

高齢者を対象とした JR グループ全体の会員組織。会員特典として、日本全国の JR 運賃・料金が、年間 20 回まで 20～30%割引となる。入会資格は、個人会員の場合、男性が満 65 歳以上、女性は満 60 歳以上。夫婦の場合は、どちらかが満 65 歳以上であれば配偶者の方の年齢に関係なく、夫婦会員として入会可能である。

- ・ 四国エンジョイクラブ

高齢者を対象とした、当社独自の会員組織。曜日や時期に関係なく、土佐くろしお鉄道も含めて四国内の片道 71 km 以上の往復乗車券、1 列車 51 km 以上の特急券の購入により、運賃、料金が 30%割引になる。入会資格は、男性 60 歳以上、女性 55 歳以上であり、年何回でも利用可能である。切符の購入以外にも、指定ホテルや駅レンタカー、当社が企画募集する個人型ツアーの割引特典がある。ジバ

ング倶楽部と比べて年齢制限が低く、年間利用回数に制限がないという特徴がある。

- ・ ヤングウィークエンドカード

若者を対象とした、当社独自の会員組織。金曜日の午後5時以降や土、日曜日、祝日、国民の休日、振替休日、12月31日、1月2日～3日に利用する場合に、土佐くろしお鉄道も含めて四国内の片道61km以上の往復乗車券、特急券の購入により、運賃、料金が40%割引になる。入会資格は13歳～29歳限定であり、切符の購入以外にも、指定ホテルや駅レンタカー、当社が企画募集する個人型ツアーの割引特典がある。

(3) その他のサービス

- ・ アンパンマン列車（図-3）

地域観光の活性化や本州・四国間並びに四国内の交流人口拡大を目的に、テレビ、絵本等で子どもたちに親しまれているアニメーション「それいけ！アンパンマン」のキャラクターを特急列車の車体に描いた「アンパンマン列車」を運転している。平成12年に土讃線の特急列車で運行を開始して以来、四国内外のお客様にご好評をいただいております。運行区間もその後、予讃線、高德・徳島線にも拡大し、四国旅行の素材の一つとして定着している。



図 - 3 アンパンマン列車（土讃線用）

4. おわりに

今後の当社を取り巻く経営環境を見据えた時、岡山駅にて新幹線との乗換が不要となり、抜本的な輸送手段の改革であるフリーゲージトレインの導入が視野に入ってくるが、それまでの間においても、四国における基幹的輸送機関としての役割を果たし続ける必要がある。少子高齢化・人口減少社会を迎えた四国において、四国地域の活性化に寄与するため「四国とともに光り輝く企業グループ」として、当社はおお客様の視点に立って、誰にでもご利用しやすい鉄道輸送を提供し続ける必要がある。